

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援・放課後等デイサービス HUGS		
○保護者評価実施期間	令和 7年 3月 1日 ～ 令和 7年 3月 15日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	10	(回答者数) 8
○従業者評価実施期間	令和 7年 3月 1日 ～ 令和 7年 3月 15日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10	(回答者数) 10
○事業者向け自己評価表作成日	令和 7年 3月 31日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	楽しく通所できる多彩な活動プログラムを設定し、丁寧できめ細かい対応	“静”、“動”を合わせながら活動を設定し、飽きることなく常に意欲的に取り組めるプログラムを行っている。担当制を設けず、保育士、児童指導員（教員、社会福祉士）、看護職員などの全職員が多方面から支援に関わることで、こども・保護者との信頼関係を築いている。実際の生活場面で活かせる発達支援を行っている。	職員の雇用の継続性を高め、安心して通所できる環境づくりに取り組む。こどもの自主性・主体性を尊重できるようにしていく。
2	こどもの発達、ニーズ（医療ケア）に応じた支援体制	医療的ケアが必要なこどもに対して、看護職員を配置して対応している。重症心身障害のこどもを受け入れ、こども園での受け入れが難しいケースや家庭では取り組みにくい課題に対応しています。家庭からの相談を受け入れやすい体制を整え、保護者の思いを重要視している。	事業所での活動が主の養護者以外の家族にも届くような発信を行い、ニーズの明確化とご家族の協力を得て発達支援を実施していく。
3	放課後等デイサービスとの多機能を利用した、継続的な支援体制と異年齢同士でのコミュニケーションの獲得	就学に合わせた環境の変化に対し、事業所での人間関係が変化しないことで、こども、保護者共に安心して通所できるようようにしている。また、異年齢が同時に活動することで、多様性を受け入れ、人とのコミュニケーションが自然と身に付く支援を実施している。	たくさんの人との関わりから、相手を理解・尊重する機会をたくさん持ち、気持ちの成長を促す取り組みを行う。また、集団の中で役割を果たすことで、自己肯定感を高めていける支援を行っていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	各リハビリ専門職による支援体制	こどもの発達に合わせた専門職（作業療法士、理学療法士、言語聴覚士、心理士）による支援が求められているが、現段階では人員の確保が出来ていない。	現状は、各専門機関での取り組みを、事業所で取り入れている状況であるため、人員確保が出来るまでは、それらを継続して行う。
2	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会の確保	保育所、こども園、幼稚園との並行利用が多く、保護者ニーズがない。また、時間帯の確保が難しい。各園に通園していないこどもは、なんらかの事情で通園が出来ないため場所が変わる活動が難しい。	一緒に活動できるイベントを企画・開催することで、地域の住民や商店・企業様との合同活動を持てるように取り組む。
3	家族の対応力の向上を図るための、家族等の参加できる研修の機会や情報提供等の実施	特性、困りごと、ニーズが様々であり、課題も多様であることから、小集団でのペアレントトレーニングの実施は難しく、個別に相談・助言をする機会になっている。	ペアレントトレーニングの専門知識を持つ職員が不足しているため、研修等を実施して個別ケースに対応できる人材を増やしていく。